

明治四十一年法律第二十九号

刑法施行法 抄

第一条 本法ニ於テ旧刑法ト称スルハ明治十三年

第三十六号布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト称スルハ

刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニ

シテ法律ト同一ノ効力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二条 刑法施行前ニ旧刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ

罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主

刑ト旧刑法ノ主刑トテ對照シ刑法第十條ノ規定

ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑 旧刑法ノ刑

死刑 死刑

無期懲役 無期懲役

無期禁錮 無期流刑

有期懲役 有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮 有期流刑、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮

罰金 罰金

拘留 拘留

科料 科料

第三条 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ

酌量減輕ヲ為ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ為シ

タル後刑ノ對照ヲ為ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱

發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ為ス

可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ

又ハ二個以上ノ主刑中其一ノ刑ヲ科ス可キトキハ

雖モ旧刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト余罪

トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前ニ刑法ノ

有期懲役ニ相當スル刑ニ該罪ヲ犯シ刑法施行

後其罪ニ付キ裁判ヲ為ス可キトキハ刑法又ハ刑法ノ

刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關

スル規定ヲ準用ス

一 旧刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相

當スル刑ニ處セラレタル者

二 旧刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相

當スル刑ニ該罪ト實質ノ罪ニ因リ死刑ニ處

セラレ其執行ヲ免除ヲ得又ハ減輕ニ因リ懲役

ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關

スル規定ニ依リ處断セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後

ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ

為ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ旧刑法又ハ

他ノ法律ヲ適用ス可キトキ雖モ其罪ト刑法施

行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規

定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後

ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ

為ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ旧刑法又ハ

第十三條 刑法施行後ハ旧刑法又ハ旧刑法施行前

ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、

仮出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役

場ニ留置スル場合ニ於テハ檢察官ノ請求ニ依リ

裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ為ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第

八十一号布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ為

ス可シ

第十四條 旧刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ

於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中断ニ付テハ

期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十五條 刑法施行後ハ旧刑法ノ刑ニ處ス可キ者

ト雖モ刑ノ執行猶予ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準

用ス

第十六條 前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ

對照ヲ為ス可シ

第十七條 刑法施行前ニ假出獄ノ許サレタル者及ヒ

幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨ

リ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條 刑法施行前罰金又ハ科料ヲ完納セザル者及ヒ

禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施

行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ

準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑

第二十二條 他ノ法律中旧刑法ノ規定ヲ揭ケ又ハ

旧刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ

定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規

定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス

可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル

特別ノ規定ハ之ヲ適用セズ刑ノ減輕ノ方法ニ付

テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明

治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 旧刑法第二編第四章第九節ノ規定ハ

當分ノ内刑法施行前同一ノ効力ヲ有ス

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關ス

ル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例

ニ從フ

一 削除

二 削除

三 明治三十八年法律第六十六號ニ揭ケタル罪

四 通貨及証券模造取締法ニ揭ケタル罪

五 船泊法ニ揭ケタル罪

六 船員法ニ揭ケタル罪

七 船舶職員及び小型船舶操縦者法ニ揭ケタ

ル罪

八 船舶検査法ニ揭ケタル罪

九 戸籍法ニ揭ケタル罪

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例

ニ從フ

一 著作權法ニ揭ケタル罪

二 削除

三 移民保護法ニ揭ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ旧刑法ノ

刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法

施行ノ為メ變更セラレタルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役

若クハ禁錮ニ該罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ

旧刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該當セザル懲役若クハ禁錮又ハ

罰金ニ該罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法

ノ輕罪ト看做ス

第三十一條 前條ニ該當セザル懲役又ハ禁錮ニ該罪ハ他

ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ禁錮ニ該罪ト

看做ス

前條ニ該當セザル懲役ニ該罪ハ他ノ法律ノ

適用ニ付テハ旧刑法ノ重禁錮ニ該罪ト看做ス

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減

輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク

外旧刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依リ

前条ニ該当セザル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

**第三十一条** 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ違警罪ト看做ス

**第三十二条** 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

**第三十三条** 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ処セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ重罪ノ刑ニ処セラレタルモノト看做ス

**第三十四条** 前条ニ記載シタル者及ヒ旧刑法ノ重罪ノ刑ニ処セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公権ヲ剥奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復権ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

**第三十五条** 六年未満ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ処セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ輕罪ノ刑ニ処セラレタルモノト看做ス

六年未満ノ懲役ニ処セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ重禁錮ニ処セラレタルモノト看做ス

六年未満ノ禁錮ニ処セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ旧刑法ノ輕禁錮ニ処セラレタルモノト看做ス

**第三十六条** 六年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ処セラレタル者及ヒ旧刑法ノ禁錮ノ刑ニ処セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公権ヲ停止セラレタルモノト看做ス

**第三十七条** 他ノ法律中旧刑法第三十一条又ハ第三十三条ノ規定アル為メ人ノ資格ニ関シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ旧刑法第三十一条及ヒ第三十三条ノ規定ハ人ノ資格ニ関シ刑法施行前ト同一ノ効力ヲ有ス

**第五十三条** 刑法第五十二条又ハ第五十八条ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ為シタル裁判所ノ檢察官其裁判所ニ請求ヲ為ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ為ス可シ此決定ニ対シテハ抗告ヲ為スコトヲ得

**第五十四条** 刑ノ執行猶予ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

**第五十五条** 刑ノ執行猶予ノ言渡ハ上訴ニ因リ其効力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶予ノ言渡ヲ為スコトヲ得

**第五十六条** 刑ノ執行猶予ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察官其裁判所ニ請求ヲ為ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ為ス可シ此決定ニ対シテハ抗告ヲ為スコトヲ得

**第五十七条** 第五十三条及ヒ前条ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

**第五十八条** 明治三十八年法律第七十号ニ依リ刑ノ執行猶予ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶予ノ期間ヲ經過セザル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶予ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

**第五十九条** 明治三十九年法律第五十四号ハ之ヲ廃止ス

**第六十条** 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得

**第六十一条** 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ為ス可シ

附則  
 本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 刑法附則其他旧刑法施行ノ為メ公布シタル法令ハ之ヲ廃止ス

附則 (明治四二年三月八日法律第四号) 抄  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (明治四三年四月一三日法律第五号) 抄  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (大正五年三月七日法律第一五号) 抄  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (大正五年三月七日法律第一七号) 抄  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (大正一二年四月二五日法律第七号) 抄  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (昭和二年四月一日法律第四七号) 抄  
 本法ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年八月一四日法律第七二号) 抄

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (昭和二年四月二六日法律第六一号) 抄  
 第三十三条 この法律は、日本国憲法施行の日から、これを施行する。

附則 (平成一〇年一〇月二日法律第一一四号) 抄  
 (施行期日)  
 第一条 この法律は、平成十一年四月一日から施行する。

附則 (平成一四年六月七日法律第六〇号) 抄  
 (施行期日)  
 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (令和四年六月一七日法律第六八号) 抄  
 (施行期日)  
 1 この法律は、刑法等一部改正法施行日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。  
 一 第五百九条の規定 公布の日